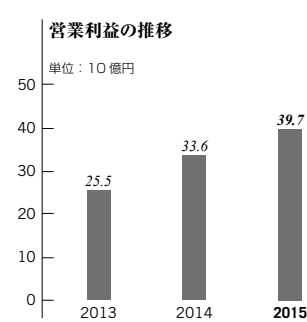
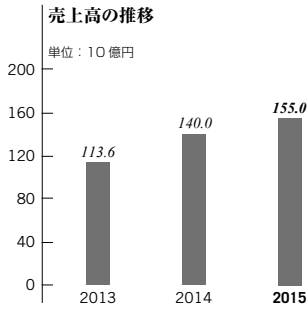
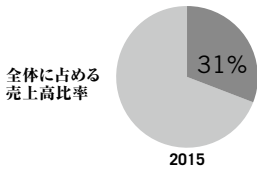


機械加工品事業



当会計年度の機械加工品事業の売上高は154,986百万円となり、前会計年度に比べ14,953百万円(10.7%)の増収となりました。営業利益は、39,713百万円と前会計年度に比べ6,162百万円(18.4%)の増益となり、売上高営業利益率は25.6%と前会計年度に比べ1.6ポイント上昇しました。世界の景気回復による販売の増加や、稼働率上昇による単位製造コストの低減に加え、為替レートの追い風もあり、大幅な増収増益を達成しました。

主力製品であるミニチュア・小径ボールベアリングは、自動車、OA機器、家電製品など幅広い分野で旺盛な需要が続き、外部販売数量は月平均1億4千5百万個と、前期比6%増となりました。収益面では、稼働率の上昇やアジア通貨安による米ドル建て製造コストの低下により、利益率が改善し、増収効果と相まって増益となりました。

ロッドエンドベアリング&スフェリカルベアリングは、新型機への更新等で民間航空機需要が堅調に推移したのに加え、円安の効果もあり、売上、利益とも増加しました。

ピボットアッセンブリーは、需要先であるHDD市場においてPC以外の需要が伸び、比較的安定した状態が続きました。その中で、当社は高いシェアを生かして利益を伸ばしました。

主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品 (注)	主要市場	当社の 世界市場占有率
ミニチュア・小径 ボールベアリング	各種小型モーター、家電、 情報通信機器、自動車、産業機械	60%
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機	50%
ファスナー	航空機、自動車	—
ピボットアッセンブリー	HDD	70%

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しています。

今後の取り組み

ボールベアリング事業では、歩留まり向上と合理化による原価低減を継続して行っています。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化を図りながら、基礎技術開発部門の強化も図っています。今後につきましては、2015年5月に発表した新「5本の矢」戦略の第一の矢に掲げた月平均外部販売数量1億8千万個の早期達成に向けて拡販に努めていきます。

ロッドエンド・ファスナー事業では、タイにおける部品生産能力の拡大で全体コストの削減を追究するとともに、日英米拠点における販売連携を強化していきます。また2013年7月に買収したセロベア社によるシナジーを目指し、セラミック製航空機部品の開発にも注力していきます。

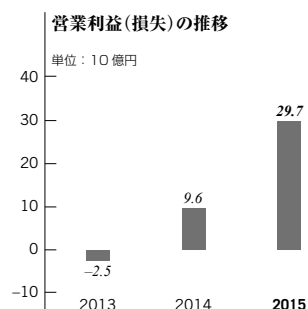
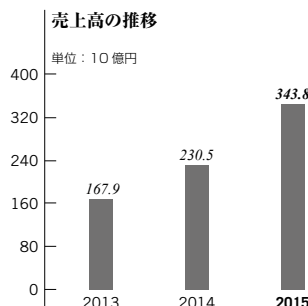
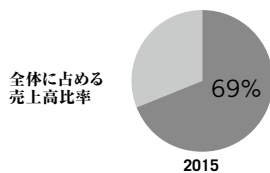
ピボットアッセンブリー事業では、歩留まり向上など継続的な原価低減を図っています。ピボットアッセンブリーでの当社の高いシェアと、ミニチュア・ボールベアリングとのシナジーを生かしつつ、サーバー用

主要製品

ボールベアリング ロッドエンドベアリング スフェリカルベアリング ローラーベアリング プッシング
ピボットアッセンブリー メカニカルアッセンブリー 航空機用ネジ類 自動車用ネジ類

*会社組織の変更に伴い、2014年度からセグメント区分を変更しました。

電子機器事業



当会計年度の売上高は343,842百万円と前会計年度に比べ113,328百万円(49.2%)の大幅な増収となりました。営業利益も29,721百万円と前会計年度に比べ20,139百万円(210.2%)の大幅な増益となりました。売上高営業利益率は8.6%と前会計年度より4.4ポイント上昇しました。

液晶用LEDバックライトは既存顧客の新型スマートフォン向けに当社の得意とする超薄型液晶用LEDバックライト製品が伸びました。加えて、販売台数を伸ばしている中華系スマートフォンメーカーを中心とした新しい顧客層向けにも、超薄型液晶用LEDバックライト製品の販売先が拡大したことから、増収増益となりました。

モーターは、自動車向けなどの需要増加を受けて売上が伸びたほか、これまでの固定費削減策の効果により収益性も改善しました。

計測機器は試験装置、自動車向けともに販売が着実に伸び、増収増益となりました。

主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率(注)
液晶用LEDバックライト	中高級スマートフォン、携帯電話、自動車、デジタルカメラ、デジタル携帯端末	40% (中高級スマートフォン)
モーター (ステッピングモーター、HDD用スピンドルモーター、DCブラシレスモーター、DCブラシ付モーター、ファンモーター、精密モーター)	PC・サーバー、HDD、情報通信機器、家電、自動車、産業機械、OA機器	製品により 2～70%
計測機器	産業機器、自動車、PC	—

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しています。

今後の取り組み

液晶用LEDバックライトは、引き続きスマートフォン市場の成長が見込まれる中で、電池容量の確保、高精細画面化、軽量化に必要な超薄型で高効率の液晶用LEDバックライトを使用する製品が従来の高級品クラスから中級品クラスへ広がってきており、当社製品への需要は更に増加しています。既にタイとカンボジア拠点での生産能力の大幅な拡大を行っており、2016年3月期についても大幅な増収増益を見込んでいます。また、カンボジアにおけるスマートシティ向けLED街路灯やトンネル向け屋外LED照明、スマートアジャスタブルLEDライト(SALL)等、当社の導光板技術や無線技術等の要素技術を融合した新製品の開発を進めており、新「5本の矢」戦略の第3の矢である照明器具関連製品の拡販を図ります。

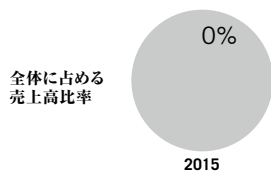
モーターは、引き続き原価低減、構造改革を進め、さらなる収益改善を目指します。

計測機器については、単なるハカリとしてではなく、計測機器のセンサーとしての機能を再確認した事業戦略に基づき、医療・介護関連市場、ロボット分野、橋梁などのインフラ構造など新しい分野への展開を図りつつ、買収したSartorius Mechatronics T&H GmbHとのシナジーを最大化することで、売上を早期に年間500億円程度に引き上げるよう努めていきます。

主要製品

液晶用LEDバックライト 複合製品 ステッピングモーター DCブラシレスモーター DCブラシ付モーター
ファンモーター HDD用スピンドルモーター 精密モーター 計測機器

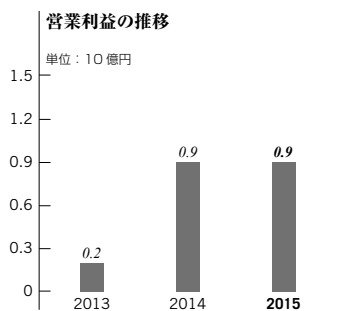
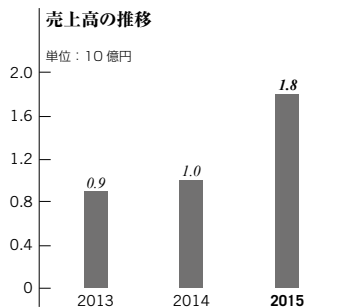
その他の事業



当会計年度の売上高は1,848百万円と前会計年度に比べ852百万円(85.5%)の増収となりました。営業利益は859百万円と前会計年度に比べ7百万円の減益となりました。売上高営業利益率は46.5%と前会計年度より40.4ポイント低下しました。

主要製品

金型 内製部品



調整額

上記以外に、各セグメントに帰属しない全社費用等 10,192百万円を調整額として表示しています。前会計年度の調整額は11,800百万円でした。